

技術開発事例	共同研究	観光ガイド情報端末の開発
【共同研究先】	株式会社 ロジックデザイン	

【研究目的】

観光地の魅力を案内するボランティア等による観光ガイドが増えています。しかしながら借楽園のように季節的な観光客数変動がある観光地では、ガイドが不足し、魅力を伝えきれない場合があります。

本研究では、観光地の繁忙期に利用できる、観光ガイドを代替する手軽な装置を研究し、クライアント(観光ガイド端末)－サーバー(ガイドエンジン)システムの検討を目的としました。

【研究内容】

今年度の計画として、①観光ボランティア聴取・分析、②観光客要望調査・分析、③現地踏査、④使用技術検討、⑤類似システム調査、⑥特許調査、⑦ハードウェア検討、⑧ソフトウェア検討を実施しました。現地踏査では借楽園を対象地して調査し、借楽園事務所からのニーズ調査も実施しました。

【結果】

コンセプトとして、「観光ガイドのように、見所で案内音声を自動再生するシステム」としました。コンセプト概念図と借楽園での観光案内の課題、それに対する観光ガイド端末機能を下図に示します。

音声ナレーション「老梅の幹を「鉄幹」と呼ぶようです。梅の寿命は200～300年といわれていますので、鉄幹と呼ぶにふさわしい風格を持つには100年以上とされています。」



音声ナレーション「ここから家門へは、お近くの階段を上って梅林へ出て下さい。そこからは、梅林に出てからご案内します。」



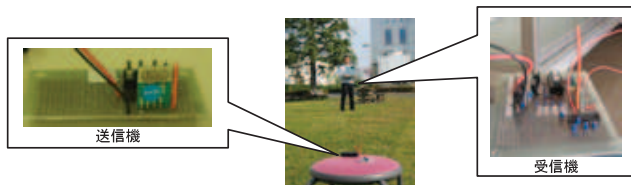
【課題】

- ・ 無料開放園であるため意外にパンフレットなどの詳細説明が完備されていない。
- ・ 園内が複雑で迷うことがある。
- ・ 公共交通機関や門からの入り方、車いすの利用など現地での情報が得にくい。

【機能】

- ・ 各々の梅の木位置測定が可能で、それにあつた情報をボランティアのように説明する。
- ・ 現在位置から集合場所や入門位置までを、ボランティアのように案内する。

ハードウェアの検討では、見所に接近したことを観光ガイド端末に認識させるために、見所に設置した無線発信器の電波強弱により判断する装置開発を行いました。今後はより効率的にガイドするサーバーシステムの開発を実施する予定です。



基礎となった事業	平成19年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究）		
担当部門	技術基盤部門	部門長 富長 博	tel : 029-293-8575
	総技術部門	主任研究員 佐藤 茂	tel : 0296-33-4154